

みんなあでつながる！ひろげる！地域のチカラ

パラッットふくし

こ う ち

高知県社会福祉協議会広報誌



障がいと 共に生きる

～障がい者スポーツの可能性～

2022
12月号

vol.5

contents

ボランティア・NPO情報 てをつなGO！——6
地域に広がる“障がい者スポーツ”

シニアのちょっといい話——8
木の会 | 天野守章さん

プラットこうち人 ノボトニー・ジェロウムさん——10

高知県社協からのお知らせ——11

市町村社会福祉協議会ご紹介——12
津野町社会福祉協議会

障がいと共に生きる～障がい者スポーツの可能性～

2人の博士が紡ぐ、現代のパラリンピックへとつながる、日本と世界における障がい者スポーツの誕生秘話。

バドミントンや水泳、陸上やバスケットなど多くのメダルに日本中が沸いた

「東京2020パラリンピック」。

世界中からの注目を受けるなか開催された本大会では、

選手たちの高度な身体能力や華麗なパフォーマンスに多くの方が驚き、

改めて人間の無限の可能性を感じる機会になりました。

ところで、「パラリンピック」とはいったい何でしょうか？

パラリンピックが世界、そして日本で広まっていく過程には、

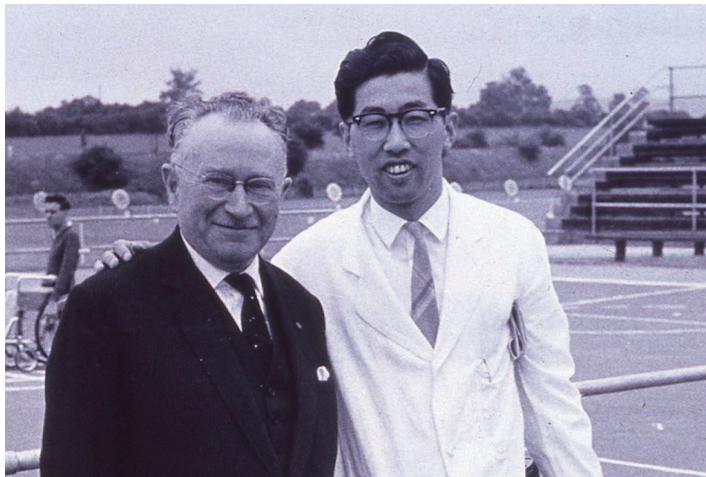
『障がい者スポーツの父』と言われる2人の男性がいました。

その足跡を通して、

障がい者スポーツ全体の生い立ちを探ってみたいと思います。

パラリンピックの原点

まず、1人目は世界のパラリンピックの父とも称されるイギリスの医師、ルードウィッヒ・グットマン博士です。博士は脊髄を損傷した患者向けの有効な治療手段としてスポーツにかねてから着目しており、1948年にはロンドンで開催されたオリンピックにあわせて自身の病院で脊髄損傷者16名によるスポーツ大会を開催しました。『失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ』の理念のもと、博士はこの小さな大会を徐々に発展させていき、1960年にはローマで第1回パラリンピックが開催されるに至りました。



グットマン博士と中村博士(写真提供:社会福祉法人太陽の家)

「失われたものを数えるな。
残されたものを最大限に生かせ。」
パラリンピックの偉大なる父

R・グットマン 博士

ドイツ出身、1899年生まれの神経学者。1938年にイギリスに亡命し、1944年にロンドンの郊外にあるストーク・マンデビル病院国立脊髄損傷センターの所長に就任。戦後は傷痍軍人たちの治療を重ねる中で、そのリハビリテーションにスポーツが有効であることに着目。1948年に開催したストーク・マンデビル競技大会は以後国際大会として開催されるようになり、後のパラリンピックとなった。1980年没。



「保護より機会を！」を信念に、
障がい者の活躍できる社会をめざした
日本における障がい者スポーツの父

中村裕 博士

大分県出身、1927年生まれの整形外科医。1958年から別府市の国立別府病院の整形外科医長を務める。グットマン博士との出会いを経て、障がい者スポーツの普及に尽力し、1964年のパラリンピック東京大会では選手団長を務める。65年に障がい者の自立を支援するための施設である「太陽の家」を設立。車いすバスケットボールを日本に初めて紹介したのも中村博士である。



東京パラリンピックの選手宣誓(写真提供:社会福祉法人太陽の家)

東京五輪、そして太陽の家

第1回パラリンピックが開催された1960年、整形外科の研究のためにグットマン博士の病院へ留学したのが大分県の国立病院の医師・中村裕博士です。

グットマン博士の病院で、中村博士は脊髄損傷者の機能回復におけるスポーツの効果を目の当たりにしました。日本ではまだ「リハビリテーション」という言葉もあまり知られていなかった時代でしたが、帰国後は早速その環境づくりに邁進。翌年には地元の大分県で障がい者を対象とした体育大会を開催しました。第2回パラリンピックとなる1964年の東京大会は中村博士の働きかけがあってその気運が一気に高まったようです。

中村博士の活動はその後も続き、1965年には現在の全国障害者スポーツ大会の基礎となる「全国身体障害者スポーツ大会」を開催するなど、日本の障がい者スポーツの礎を築きました。

また、スポーツで機能回復した障がい者が次に必要となるのは「仕事をもち働いていくことだ」として「太陽の家」を創設。太陽の家ではソニーなどの大企業と提携して共同出資会社をつくり、多くの重度の障がいのある人を雇用しました。

2人の博士の想いを未来へ

2人の博士の視線の先には、障がい者スポーツの発展ということだけでなく、常に「障がい者の社会参加」がありました。

中村博士が開催に尽力した全国障害者スポーツ大会は、国内最大の障がい者スポーツの祭典として毎年開催されており、その開催目的には【スポーツを通じて障害者の社会参加に寄与すること】が謳われています。

障がい者スポーツが 生み出す、生きる力



ソフトボールやバスケットなど、障がい者スポーツにはさまざまな競技があります。それぞれの競技にさまざまな障がいを持った選手が取り組む中で、生活や人生にとって「大きな力」になっています。このページでは、障がい者スポーツの競技や選手の生き様をご紹介します。

「できない」を「できる」に変える行動力を 与えてくれました

坂本順一さん(土佐市)

学生時代から野球やソフトボールなどのスポーツに熱心に取り組んでいたという坂本さん。1999年に脳出血により左半身まひとなりましたが、その情熱に障がいの有無は関係ありませんでした。

坂本さんが障害者スポーツセンターの利用を通じて出会った新たなスポーツが、「フライングディスク」。やるとなれば常に全力で!ということ了近所の公園で連日練習に励んだ結果、2017年に愛媛県で行われた全国障害者スポーツ大会では高知県代表選手の座を掴み取るほどに。この大会で出会った全国から集まった選手と交流を深め、今でもその交流は続いているとのこと。

もともとスポーツマンだった坂本さんにとって、以前のようにスポーツができなくなったことの悔しさは人一倍だったと思います。しかし、スポーツを通して「できない」ことをひとつひとつクリアしながら「できた」に変えていく行動力に私たちが学ぶことは沢山あると思います。

日本独自の障がい者スポーツ グラウンドソフトボール

「盲人野球」の名で全国に普及した日本独自のスポーツです。野球やソフトボールを原形としていますが、視覚障がいを持つ人々が誰でも活躍し楽しむための工夫や、残存機能を信じて生かすたくましが散りばめられています。使用されるボールには音が鳴る物が入っており、ハンドボールと同じサイズのボールをピッチャーがアンダースローで転がします。バッターはこのボールを地面との摩擦音だけで距離感やタイミング

を計り、ゴルフスイングのようにバットを振り抜きます。打った後は1塁ベースに向けて全力疾走し、コーチが手拍子や声で選手をベースに誘導します。守備する側も転がってくるボールの摩擦音を頼りに追いかけてキャッチするとフライキャッチと同じと認められ、アウトになります。弱視の選手と全盲選手の人数比が決まっているこの競技は、弱視が取れないボールを全盲がアウトにすることもあり、障がいの重い全盲の活躍が勝敗を左右することも珍しくありません。



障がい者スポーツのこれぞ花形! 車いすバスケット



シンプルだけど奥が深い! ボッチャ

重度身体障害者向けにヨーロッパで誕生したスポーツ「ボッチャ」。競技はジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに向けて赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり転がしたり、他のボールに当てるなどして近づけるもの。ルールはいたってシンプルですが、一球一球の配置に戦略性があるなどの奥深さがあり、障害などのためボールを投げることができなくても勾配具(ランプ)を使うことで競技ができるなど、誰もが同じルールで楽しめるユニバーサルスポーツの側面から愛好者が急増しています。



いわずと知れた、障がい者スポーツの花形競技! 2021年の東京パラリンピックでは男子が銀メダルを獲得し、その活躍を目にした方も多いと思います。

車いすバスケットで使われるボールやリングの高さは一般と同じで、コートに入れる選手の数も5人と人数は一緒ですが、障がいの軽いばかりで競技ができないよう、選手それぞれの障がいのレベルに応じて1.0~4.5のポイントを割り振り、5人の合計を14ポイント以内に抑えるルールになっています。

近年では障がい者のスポーツという概念から、ユニバーサルスポーツとして、身体に障がいがあなくても4.5のポイントが付与され、一緒に競技できる大会も増えてきています。

試合の惨敗が 生き様を変えた!

谷大介さん(安芸市)

高知県内の特別支援学校を卒業後、介護職として福祉施設に就労しながら全国障害者スポーツ大会の県予選等に参加していた谷さんは、2018年には選考会を経て陸上競技の全国大会に出場することになりました。

しかし、素質に恵まれながらも陸上への熱意や取組はいまひとつで、練習にも熱が入らず、当時好きだったというギャンブルの方についつい思いが行ってしまう始末。当然ながら全国大会では惨敗してしまい、チームのムードメーカーだったという谷さんは人目とはばからず悔し泣きをしたそうです。

谷さんが変わったのはここからです。毎週末になると自宅のある安芸市から公共交通を使って障害者スポーツセンターでの陸上クラブの練習に通うようになり、お給料もウェアやシューズの購入にあてるようになりました。クラブの練習でも「タニ・ブラウン」を自称するなど、ムードメーカーとして周囲の人を明るい空気で包んでくれています。

残念ながら、コロナ禍以降は仕事の関係もあり合同練習への参加が難しくなっていますが、仲間と共に走れる日々を待ち望んでいます。



高知県立障害者スポーツセンター

高知県春野町内ノ谷1-1 電話:088-841-0021 <http://www.kochi-scdf.com/>

卓球やバドミントン、バレーボール、ダンスなどの屋内スポーツから水泳やヨット、カヌーなどのアウトドア系に至るまで、さまざまなスポーツに親しめる教室や日頃の成果を発揮するための大会を開催しています。利用者はグットマン博士の「今あるものを最大限に生かせ」という言葉をまさに体現するような遅い方から、日々競技に取り組む中でゆっくと成長していく方までさまざま。初めての方にも気軽に参加いただける初心者用の教室や、施設に向いて行う出前教室、また物品の貸出なども行っていますのでお気軽にお問合せください。

あなたも障がい者スポーツの指導員になりませんか?

障害者スポーツセンターでは、障がいのある方のスポーツ活動を様々な形でサポートしていく障害者スポーツ指導員の養成を行っています。関心のある方は、障害者スポーツセンターまでお問合せください。



小中学生に 想いを伝える 活動も...

事故や病気などで障がいを負ったことで障がい者スポーツに取り組むようになった方々が、障がい者スポーツと出会ったことでいかに生活や人生が変わったのかを、県内の子どもたちに伝える活動しています。選手との交流を終えた子どもたちからは、「生きるということは当たり前ではないことを知った」「嫌なことから逃げず色々なことにチャレンジすることを大切にしたい」といった感想が寄せられ、一人の大人として選手をリスペクトし、自分の学びに置き換えてくれていることが伝わってきます。

高知で 障がい者スポーツ といえば...



運動遊びや
自然体験活動を通じて
笑い支え合う
コミュニティづくりを!

地域に広がる 「障がい者スポーツ」

近年、スポーツの持つ力、与える影響は注目されており、オリンピックやパラリンピックはその代表例といえます。障がいのある人もない人もスポーツを通じて交流し、互いを理解する場が県内にも広がっています。今号ではこうした活動に取り組む2つの団体を紹介します。



特定非営利活動法人 YASU海の駅クラブ

高知県香南市夜須町千切536-19 (0887・57・1855)

高知県香南市夜須町のヤ・シイパークや美しい海岸を主なフィールドに、「誰のものでもない海で、誰もが楽しむマリンスポーツイベント」をキャッチコピーに幅広い活動を展開する「特定非営利活動法人YASU海の駅クラブ」。自然との共生を大事に、子どもから高齢者、障がいのある人まで「すべての人」を対象にした取り組みを紹介いたします。

当たり前を当たり前前に

YASU海の駅クラブの活動で、海にはじめて入った脳性麻痺の子。最初はおそろおそろだったのに、一回慣れてしまえば途端に「冷たい！気持ちがいい！」と大喜びしたそうです。クラブで大切にしているのは、自然の中で自分の身体を使って遊ぶことの喜びは、自然の中で自身にとっても、またそのご家族にとってもかけがえない体験になるということ。そのため、クラブでは「工夫とアイデアで何でもできる！」をモットーに、障がいの有無に関わらず、すべての人が当たり前前（の）ことを経験できる場づくりを目指しています。障がいのある子が体験できるよう「一人乗りとで車いすの人でも参加しやすい」「ユニバーサルめだかすくい」などもそのひとつです。

ユニバーサルな街・夜須

YASU海の駅クラブでは、企業や行政とも連携して特別支援学校などの修学旅行の誘致にも力を入れており、障がいのある人も海で活動ができるプラン《香南ユニバーサルプロジェクト》を旅行会社と作成しています。地域のひと、もの全てが優しさで溢れる街を目指して、クラブでは今後も行政などと連携して様々なことにチャレンジしていきます。

高知市北川添にあるスタジオを拠点に、子どもたちに身体を動かすことの楽しさや喜びを提供し続けている一般社団法人U-プロジェクトは、来年度には活動開始から10年目の節目を迎えます。さまざまな体験を通じて育まれる「心の豊かさ」を高知の未来へとつなげる取組を行うU-プロジェクトの魅力を探ります。

拠点と地域のハブとして

U-プロジェクトでは、スタジオで開催する障がい者スポーツ教室やダンス教室などの各種教室のほか、運動遊びや自然体験活動、創作活動などを楽しめる放課後等デイサービス、児童発達支援などを行っています。

遊び心が創り出す可能性

活動は北川添のスタジオだけでなく、さまざまな障がい者スポーツセンターや瀬戸スタジオなど、県内各地に積極的に出向くようにしており、それらの拠点同士や、拠点と地域をつなぐハブとして障がい者スポーツを通じて、たくさんの方が交流できる地域のつながりづくりを目指しているそうです。

スタッフの皆さんが子どもたちとの関わりの中で大切にしているのは、「子どもたちから大人が教わること」だそうです。子どもたちの自由な発想や発見、気づきを尊重することで、それぞれの遊び心や感性豊かな心を育むことで、選択肢の幅を広げることを期待しています。

チームが生み出す子どもの未来

たくさんの方の取組を行う中でも、U-プロジェクトではスタッフ全員が同じ目的を共有しています。日々子どもたちと向き合う中で、子どもたち自身の中にある「小さな芽」に気づいていくこと。そして、子どもたちが大人になったとき、その小さな芽がたくさんの花を咲かすこととなり、よりよい未来が創造されます。7つのUという目的を共にした魅力あるチームは、スポーツや文化活動を通じて、地域の様々な人の可能性を広げること、かけつくりを目指しているのです。



運動遊びや自然体験、創作活動などさまざまな活動を行う



当たり前をみんなのものに!



初めての海に感動!





この町の「木の会」では、^{たてあい} 蓼藍を種から育てて染料にまで仕立てあげ、それをまた編み物や織物にして楽しむという活動を2015年からの町加茂地区にある公民館で行っている。

春に植えた蓼藍の種は、梅雨時から夏頃にかけて葉を摘み取る。摘み取ってから約3週間乾燥させ、鍋で煮出す。葉剤を使い、染液を抽出し、その染液で布や糸を染める。蓼藍で染めた織物の色味はとて鮮やかだ。他の糸や布の色との組み合わせによっては作品の雰囲気もガラリと変わるので、いろいろな挑戦ができて奥が深いという。

メンバーそれぞれが自由につくる

木の会のメンバーが作っているのは、カーディガンやストール、バッグに靴下など、普段身に付けるものが多い。いずれも全て手仕事で仕立てたものばかりだが、手間ひまがかかる分、市販のものにはない愛着や幸福感が強く感じられるようだ。

最初は織物づくりに取り組むメンバーが多かったが、今では使わなくなった着物などをばらして「再生」したり、毛糸で靴下やニットセーター、カーディガンを一から編んだりする。この町は和紙が有名だが、最近ではその和紙を使った制作も始めた。蓼藍などで染色した和紙を裁断し、和紙糸をまず制作する。その和紙糸を使って、コースターを作るなど各自がやりたいものを自由につくっているようだ。

メンバーには、それぞれにミシンや編物などの得意分野があり、中にはその分野で「先生」と呼ばれるほどのプロ級の腕前の人もいるという。どう編んだらいいかわからなくなった時にも、アイデアを出しあったり教えあったりすることができるので、それぞれの上達も早い。



蓼藍で染めた糸を巻きつけた糸巻き

木の会

高知市

11人のメンバーが全員参加で、手仕事で。



シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいまいと地域活動をされている皆さんをご紹介します。



メンバーみんなのコミュニケーションの場

木の会では、興味がわいたらまずはやってみる!という姿勢を大切にしており、毛糸、綿、麻、和紙糸などの様々な素材でもとにかく挑戦してみるという。新たな素材に挑戦すれば、当然新たな発見もあり、挑戦すれば挑戦した数だけメンバーの楽しみも技術の幅も増える。その結果、新しい作品のアイデアもどんどん広がっていく、というわけだ。

また、会では編み物や織物などの作業だけではなく、コーヒーを飲みながら世間話や他愛のない話をするコミュニケーションの時間も大切にしているという。「楽しむ」「喋る」「情報交換」を合言葉に過ごす、週一度、約2時間という活動の時間。やりたいことをできる、でもコミュニケーションもみんなと楽しみながらとれる、そんな空間だからこそ長く活動を続けられるし、心のリフレッシュとなっている。自らの手で作品を一から制作し完成させる時間は達成感や喜びも感じられる。活動を始めて8年目となるが、活動時間を共に楽しめるメンバーを増やしながらか10年目を目指していきたいという。



学ぼう災の様子

現在81歳の天野守章さんは、「旭西部まちづくり推進会議」「いきいき百歳体操」「こども食堂」などの会長を務める、まさに高知市旭地区のキーパーソン。地域住民から合唱団をつくりたいなどの要望があがると、そのニーズに応え団体を立ち上げる。いまや、天野さんが関わっている団体は14にもなるというから驚きだ。

戦災孤児の寂しさ、そして祖父母と地域への感謝

天野さんは、幼少時代に太平洋戦争で父は戦死、母は再婚し、祖父母のもと戦後の厳しい時代を生き抜いた。両親のいない寂しさを振り切るように、一生懸命に勉学に勤しんだ学生時代を過ごした。

高校を卒業する年は、なべ底景気といわれ大就職難であった。戦災孤児だったこともあり苦勞をしたが、四電工の前身の会社に無事入社。期待に応えるべく、入社後は衛生管理者、電気工事施工管理技士、TQC(全社品質管理)・MTP(管理研修プログラム)のトレーナーなど16もの公的資格などを取得。四電工はとてもフランクな会社で、思い切り働かせてくれ、素晴らしい会社だったという。

幼少時代、祖母からは、「間違えたことはしてはいけない。できることは何でもしなさい。」という言葉は何度も聞いたという。くたくしくても人を羨んではいけない。一生懸命努力をしていたら、誰かがどこかで見ていてくれる。だから、まずは自分ができるところから行動をしていかなければいけない。祖母は、人として筋道を一本通すことの重要性を天野さんに伝えようとし、その思いは今なお天野さんの信念として息づいているのだ。戦後の厳しい貧しさの中で育て上げてくれた祖父母や助けてくれた地域の人たちへは感謝の思いしかないという。

また、幼くして親を喪った寂しさへの反動は、かえって天野さんの心の中に「人と関わりたい!人が好きだ!」という強い気持ちを生んだ。誰よりも積極的な地域での活動へのエネルギーは、人のために尽くしたいという思い、そして人と関わっていきいたいという強い思いから生まれてくるのだろう。

天野守章さん

高知市

旭西部まちづくり推進会議会長
あさひのこどもを守る会副会長

地域の人の想いを、共に地域を創るスーパーシニア!

NPOの立ち上げ

定年前から町内会へも参加するようになり、積極的に活動。定年を迎えてまもなく、当時の町内会長から「天野、次の会長はお前や。」との直接指名を受け、「できることはしなさい。」という祖母の言葉を胸に、その役割を引き受けた。

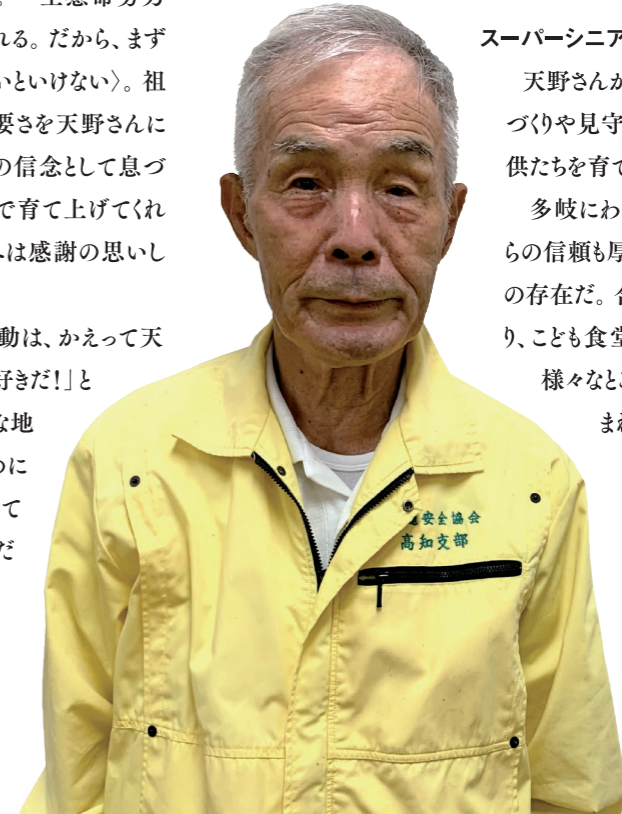
以来約18年の間、地域の住民の声にしっかりと目と耳を向け、さまざまな団体を立ち上げている。天野さんは、共働きのために親の帰りが遅い子どもたちがスーパーやコンビニでお弁当を買う姿や、地域でもずいぶん増えてきた一人住まいの高齢者の姿をずいぶん前から気にかけていた。また、「こども食堂をつくろう!」「旭には合唱団がない、つくろう!」という声もたくさん耳に届いていた。そこで立ち上げたのが「NPO法人絆・ふれあい高知」で、いきいき百歳体操、こども食堂、合唱団、独居高齢者への弁当配達、子供見守り活動などの事業に積極的に取り組んでいる。

合唱団では、地域の老人ホームなどに出向くなどの慰問活動も行っている。また、地域の桜の手入れを学生たちや住民たちと行い、環境保全へとつなげている。近い将来の発生が確実視されている南海トラフ地震への対策としては、「学ぼう災」という名で防災活動にも取り組んでいて、地域の学校にも出向いて防災教室を行っている。

スーパーシニアとして大活躍!

天野さんが行う活動は、そのいずれもが地域のつながりづくりや見守り活動に直結しており、自然と地域全体で子供たちを育てることにつながっている。

多岐にわたって活動する天野さんは、地域の住民からの信頼も厚い。活動の原動力は一緒に活動する仲間が存在だ。合唱団を立ち上げ福祉施設で共に活動したり、こども食堂で料理をつくってくれる地域の女性たち、様々なところでたくさん仲間がいる。「本当に人に恵まれちゅうがよ」と、天野さんは笑う。地域の人を大切にしながら、地域全体を巻き込み、アクティブに活動するそのパワフルな姿は、「スーパーシニア」と言うにふさわしい存在だ。



コロナ特例貸付の償還免除の申請ができます!

生活福祉資金のコロナ特例貸付を利用された方で、住民税が非課税の方は、償還免除(借りたお金を返さなくてもいい)の申請ができます(令和4年12月28日までお願いします)。まだ手続きをされていない方は、まずは下記までご連絡ください。

[対象者] 令和4年3月末までに特例貸付の緊急小口資金又は総合支援資金(初回貸付)を借入しており、借受人及び世帯主の令和3年度又は令和4年度の住民税が非課税となっている場合。

[問い合わせ先] 高知県社会福祉協議会 福祉資金課
TEL: 088-844-4600 又はお住いの市町村社会福祉協議会



高知県社協からのお知らせ

令和4年度 高知県オールパワー文化展開催!

県内在住の60歳以上の方を対象に、たくさんの方が芸術や文化に親しみ、生きがいづくり、仲間づくり、そして健康で心豊かな創作の場づくりになるようにと、毎年開催しています。思いの詰まった作品が披露されることを励みに、毎年県内全域からたくさんの作品が出品されています。皆様の出品、ご来場をお待ちしております。詳細は、高知県社会福祉協議会ホームページをご覧ください。

[日時] 令和5年3月16日(木)～21日(火)
午前9時～午後5時(21日のみ午前9時～午後3時)
[開催場所] 高知県立美術館(高知市高須353-2)
[問い合わせ先] いきいきライフ推進課
TEL: 088-844-9054

令和5年度高知県福祉活動支援基金事業の募集が始まりました!

地域で、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、支え合いながら暮らしていくことができる地域共生社会の実現に向けた地域福祉活動に助成を行います。

[募集期間] 令和4年11月1日(火)～令和4年12月20日(火)
[助成対象団体等] ○任意の福祉団体、公益法人、NPO法人など○高齢者、障害児(者)、児童関係の福祉施設など
[助成上限額] 150,000円～500,000円(事業内容により異なります。)
[問い合わせ先] 高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課
TEL: 088-844-9019



しせつの損害補償

令和4年度
社会福祉施設
総合損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設などに **スケールメリットを活かした割安な保険料で充実補償をご提供します!**

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)		保険期間1年	
▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

新型コロナウイルスを含む特定感染症に新たな補償が追加されました!

NEW 施設の感染症対応費用補償
休業補償から各種対応費用までワイドな安心
①休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
②消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
③感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 職員等の補償
- プラン4 法人役員等の補償



●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉 TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

ノボトニー・ジェロウムさん (82) プラットこうち

VOL.5

大 学卒業後、アメリカから高知へ移住してきたノボトニー・ジェロウムさん。高知カトリック教会の宣教師などの仕事をを経て、高知大学で教員を務める。定年後、絵画を始め、高知県展や高知県オールパワー文化展にも出展し、令和3年度高知県オールパワー文化展では入賞。ノボトニーさんの絵画には、その豊かな人生経験が活かしている。

高知で大学の講師に

大学卒業後、高知カトリック教会の宣教師となった。「日本語がもっと上手になりたい!」「友達が欲しい!」という思いから、宣教師をしながら魚市場や造船会社でアルバイトをした。

その後、高知県を襲った大きな台風では、背の高いノボトニーさんの胸元まで水が浸り、除水作業で背中や腰を痛めてしまい手術することになった。ちょうどそのタイミングで、高知大学の講師になることとなる。大学では、教師を目指す学生たちのコミュニケーションに関する必須授業を担当した。また、他大学から誘いを受け、社会的な問題に関する講義をアジア各国でも行うようになった。他にも、英語クラブや空手クラブの顧問、アメフトのコーチなども務め、目まぐるしくも充実した日々を送った。

定年後、文化活動へ

大学での仕事がとても充実していたため、定年した翌日からは何をしたらいいのか分からなかった。近所の方に相談したところ、「一番嫌いなことをしなさい」とアドバイスを受けた。そして、空手クラブの顧問時代に出会った師範が絵画の先生をしていた

ことがきっかけとなり、絵画を始めることになった。

先生から指導を受けながら、18年間絵を描き続けた。高知県展や高知県オールパワー文化展にも出展し、令和3年度高知県オールパワー文化展では見事入賞。ねんりんピックかながわにも出展した。絵画の他にも、世界各国に向き自分の目で見たホームレスや貧困などの社会的問題を記事にしてインターネットで発信するとともに、全国各地の大学の教授とも意見交換などの交流をしている。

ノボトニーさんが感じた世界情勢は絵画からも感じ取ることができる。

様々なことに取り組み、多彩な才能を持つノボトニーさんは、「できないことに挑戦することがとても好き」と話す。チャレンジ精神の旺盛なノボトニーさんの今後のますますの活躍が楽しみである。

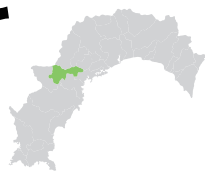


ノボトニーさんのアトリエにて



高知県内の市町村
社会福祉協議会ご紹介④

住民と力を合わせて 見守り、つながる



津野町社会福祉協議会

津野町は人口約5,500人、高齢化率45%の町です。
一人暮らし高齢者が440人を超えるこの町で、
生活に溶け込みながら
自然にお互いを気にかけてあう地域づくりに向けて、
支える社会福祉協議会と地域の取組をご紹介します。

“気になる”をつなげる仕組みづくり

津野町社協では、地域の“気になる”を
キャッチし、必要な取組を創出したり、支援
につないでいくことをモットーとしています。
町内には地域の要となる25人の民生委員
と、160人を超える福祉委員がいて、地域で
何か気になる事がある場合、互いに声かけ
したり、社協や行政に相談をつなぐ“アンテ
ナ役”をお願いしています。

社協は、それらの相談を“きちんと”受け止
めることができるよう、地域の皆さんとの何気
ない会話を大切に、日々活動しています。

また、地域で見守る様々な仕組みづくり
にも取り組んでおり、その一例として、長年取
組んできた「ふれあい配食サービス」と「サ
ロン活動」をご紹介します。



津野町社協
市川局長

「食べる喜びと安心」を支える ふれあい配食サービスの取組

「変わらないかね?」「変わらないよ。いつも
ありがとう。そうそう・・・」

高齢者宅での場面、傍らには手作りのお弁
当。津野町社協では閉じこもりがちになる高齢
者の様子の確認や交流、単調になりがちな食
事に楽しみをプラスする目的で、週に1回、ふ
れあい配食サービスを実施しています。

調理・配達ともに地域のボランティアさ
んが担い、社協は献立や食材調達、ボラン
ティアさんの調整等を行います。月に1回は
民生委員さんが配達を担当。利用者は130
人、調理ボランティア、配達ボランティアとも
に70人を超えています。「配食」を通して、
皆がゆるやかにつながり、支え合う仕組みと
なっています。

ボランティアはできんけど...と、お米や野
菜、調味料などを地域の人がたくさん持っ
てきてくれ、みんなに支えられています。



(上) 津野町恒例!年に1度の福祉パトロール。
民生委員を中心に、高齢者・障害者のお宅に一斉訪問、状況を聞き取ります。

集う楽しみ、地域のつながり 地域サロンの取組

津野町には35カ所の“サロン”があります。
サロンは決まったメニューがあるわけではな
く、世話人さんを中心に地域の人々が自主的
に集まり、各々で工夫した活動を行っています。
体操、ゲーム、創作活動、おやつやお茶、お昼
ごはん等、サロンごとにバラエティ豊か!

今回取材をした「郷リフレッシュサロン」で
は、体操からスタート、ボランティアさん手作
りのご飯を囲み、食後は輪投げをしたりと、一
日中、会話や笑いが絶えません。

ここではとにかく、「集まる場」があることが重
要で、地域の人が顔をあわせ、近況や何気な
い会話を通して、お互いが関心を持ち、生活
の中で気にかけて合うことにつながると津野町
社協も考えています。実際にサロンを通じて、
生活の困りごとが社協につながってくることも
あります。コロナ禍では、活動を中止した所も
多かったです。現在はほとんど再開し、交流の
場となっています。

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉 375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp



<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

ふくし交流プラザへの交通のご案内

[お車でお越しの方] 高知駅より車で約20分、高知ICより車で約30分、
伊野ICより車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます
[公共交通機関でお越しの方] 最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

QUOカードがあたる! 読者アンケートに ご協力ください!



「プラットふくし」をより良い紙面としていくために、みな
さまからのご意見をお待ちしております。ご回答いた
だいた内容は、今後の企画等の参考とさせていただきます
ので、右記QRコードより2月28日までにご回答くだ
さい。ご協力いただいた方の中から抽選で3名の方に
クオカード500円分をプレゼントいたします。当選者の
発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

アンケートは
こちらから!

